

2025年オープンソースネットワーク調査

回答者の63%が
**OSSを使用しており、
OSSに貢献しています。**
35%は使用しているだけで、
OSSに関与していないのは
わずか2%です。



92%の組織は、
OSSプロジェクトが
**組織の将来にとって
重要であると
考えています。**



94%の組織は、
プロジェクトに対する**オープン
ソース財団のサポート**を
重要、とても重要、または非常に
重要と考えています。



組織の83%は、
**OSSから得られる
ビジネス価値が
高いまたは非常に高いと
考えています。**

組織のワークロードの73%は、
**クラウドネイティブネット
ワーキング**を活用しており、
自動化、オーケストレーション、
スケーラビリティ、回復力が
最大の利点として
挙げられています。



組織は、
**クラウドネイティブネットワークを
使用し始めたばかりの
ワークロードを持つ組織 (41%)と、
ワークロードの大部分または
ほぼすべてがクラウドネイティブである
組織 (41%)**に均等に分布しています。

ネットワークにOSSを導入
する際の主な障壁は、
**スキルのギャップ (38%)、
セキュリティとコンプライ
アンスの懸念 (37%)、
ライセンスと法的リスク
(35%)**などです。



85%の回答者は、OSS組織は
**スーパーブループリントに
焦点を当てるべきだ**と考えており、
**スーパーブループリントは、
現代のネットワークの進化する要求に
対応する適応可能なソリューションを
提供するからです。**

OpenRAN機能は現在、
一桁台のデプロイで控えめ
ですが、2025年には**倍増し、
2026年と2027年には
再び倍増**すると
予測されています。



ネットワークAIの採用を加速させる
最大の理由は、
**高品質のデータセット (56%)と
AIアプリケーション開発の
ためのフレームワークの
可用性(29%)**です。



ネットワークの自動化と
オーケストレーション (57%)、
セキュリティと脅威の検出 (50%)、
予測メンテナンス (41%)は、
評価または導入されている**主要な
AIアプリケーション**です。



74%の組織が
**AIネットワーク開発の
基盤として、
オープンソースを
好んでいます。**

